

論文要旨及び学位論文審査結果要旨

保健医療学研究科保健医療学専攻 博士後期課程 作業療法学分野 学籍番号：2186003 氏 名：坂本 和貴	学位授与年月日	令和2年3月12日
	博士論文受理年月日	令和元年12月10日
	論文審査終了年月日	令和2年2月20日
博士論文名	A case of somatoparaphrenia characterized by very mild somatosensory disturbance and absence of anosognosia for hemiplegia and personal neglect	
論 文 要 旨	<p>身体パラフレニアとは、病巣と反対側の麻痺した身体部位に対して、他の誰かの体の一部であると主張する症状である。多くの場合、自己の左片麻痺を認めない「片麻痺の病態失認」、左半身が意識にのぼり難くなる「半身無視」、重度の体性感覚障害の3つの症状を伴う。しかし近年、少数であるが、これらの3症状のどれかを伴わない身体パラフレニアが報告されてきた。けれども、3症状ともが無い身体パラフレニアの報告はなかった。また、重度の体性感覚障害がない場合でも明らかな位置覚障害はあり、これが症状の出現に重要とされていた。</p> <p>本研究では、右前頭葉内側の損傷後に身体パラフレニアを呈したと考えられる症例に対して、内観の聴取、言動の観察、神経心理学的検査および上記3症状の詳細な検査を行った。結果、片麻痺の病態失認、半身無視、位置覚障害以外の体性感覚障害のいずれもなかった。したがって、これら3症状のどれか一つがあることさえも身体パラフレニアの必要条件ではないことが初めて示された。また、位置覚障害もごく軽度であり、もし位置覚の障害が身体パラフレニアの出現に必要なだとしても、その寄与はわずかであることも示された。</p>	
学 位 論 文 審 査 結 果 要 旨	<p>主査 作業療法学分野教授 佐藤寿晃 副査 作業療法学分野教授 八巻通安、副査 看護学分野教授 後藤順子</p> <p>本研究は、右前頭葉内側の損傷後の身体パラフレニアを呈した症例に対して、内観の聴取、言動の観察、神経心理学的検査および「片麻痺の病態失認」、「半身無視」、「重度の体性感覚障害」に対する詳細な検査を行った。その結果、「片麻痺の病態失認」、「半身無視」、「重度の体性感覚障害」のいずれもなかった。これらの3症状のどれか一つがあることさえも身体パラフレニアの必要条件ではないことを初めて示され、また位置覚障害もごく軽度であり、もし位置覚の障害が身体パラフレニアの出現に必要なだとしても、その寄与はわずかであることを示したことは新規性があり、注目に値する研究であり、当該研究分野に示したという点で有効性があると考えられる。</p>	